

浜比嘉島の祭場と儀礼

大 城 學

(沖縄県立博物館)

Religious Service Sites and Ceremonies of Hamahiga Island

Manabu OHSHIRO

(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

浜比嘉島は、沖縄本島中部、勝連半島の東方海上約5kmに位置する。方言で〈バマヒジャ〉という。勝連町に属し、浜と比嘉の2字を構成する。浜は島の西部にあり、比嘉は島の東部に位置する。浜の北西部に浜集落、比嘉の東部に比嘉集落、比嘉の南東部に兼久集落（比嘉のヤードゥイ〈屋取〉）がある。生業は農業と漁業が主体であるが、本島に出かけ建設業や土木業に従事している方もいる。

人口は1990年3月末日現在で、浜377人、比嘉（兼久を含む）246人で、合計623人。小学校、中学校それぞれ1校ずつあり、小学校は比嘉にあり（勝連町立比嘉小学校）、中学校は浜にある（勝連町立浜中学校）。

本島とは船で結ばれている。浜比嘉島と本島の屋慶名港間に定期船が就航している。浜へは、恵比寿丸が1日1往復、はまゆう（快速船）が3往復している。比嘉へは、

かすみ丸が2隻就航していて、1日都合3往復している。

浜比嘉島には有形、無形のさまざまな民俗現象があるが、本稿では、祭場（拝所）と儀礼（年中祭祀）をとりあげる。本題にはいる前に、浜比嘉島に伝承されている沖縄の創世神話「アマミキヨ」に関することを紹介しておきたい。

まず、沖縄の創世神話のことが記載されている文献『おもろさうし』（1531～1623）、『琉球神道記』（1608）、『中山世鑑』（1650）、『中山世譜』（1724）、『球陽』（1745）によると、アマミキヨ（シネリキヨはアマミキヨの対語）は国土を創造した神である、ということである。アマミキヨは、はじめ久高島に上陸したが、やがて対岸の知念半島の斎場御嶽の地に住みついたといわれている。さらに西にすすみ、知念森城、玉城城を築いたという。このように、アマミキヨは久高島を中心とする知念半島が活躍の舞台であったようだが、実は、浜比嘉島にも

アマミキヨの伝説があり、それにまつわる史跡がある。

浜比嘉島では、アマミキヨは、はじめ津堅島に上陸したが、水がなく住めないということで浜比嘉島に渡ってきて住みついた、と伝えられているのである。

これらの資料から、アマミキヨは個人をさしているのではなく、民族的な集団をさしていることがわかる。〈アマミ〉は沖縄人が悠遠のむかし住んでいたと考えられる異郷の地、つまり祖先伝来の発祥地を意味することばである。〈アマミ〉に住んでいた人たちが〈アマミキヨ〉であり、沖縄の人たちと同族であると考えられている。アマミキヨは知念半島のみならず、勝連半島でも活躍していたのである。

本稿で詳細にふれることはできないが、アマミキヨと関わりのあるオタカベ、ウムイ、ミセセル、ティルクグチなどの神歌をみると、アマミキヨは前述したように創世神で、国づくり、島づくりをしただけでなく、じつは稲作（農耕）と深く関わっているということがわかる。そのことからアマミキヨ族は、浜比嘉島を足がかりにして、稲作を勝連半島、与那城、具志川あたりへと広めていたであろう推測できるし、同じように、久高島から知念半島へ渡ったアマミキヨ族はそこを足がかりにして、知念、玉城へと稲作を広めていったであろうと考えられるのである。

I. 祭 場

『琉球国由来記』（1713）に記載されている浜比嘉島の御嶽は次のとおりである。

マサゴロヨリアゲ嶽

神名、イシヅカサノ御イベ

ツチホシキ嶽

神名、イシヅカサノ御イベ

脇山嶽

神名、イシヅカサノ御イベ

赤岸ノ嶽

神名、イシヅカサノ御イベ

久場島ノ嶽

神名、マネヅカサノ御イベ

比嘉城嶽

神名、イシヅカサノ御イベ

アマミゾ（ヅ）嶽

神名、イシヅカサノ御イベ

右七箇所、濱比嘉巫崇所。

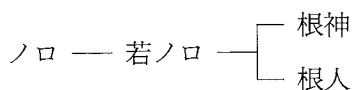
この7つの御嶽（拝所）は、以下に記すように、現在の拝所の名称とは異なっている。本稿では、現在の信仰の対象になっている拝所について調査した。

〔1〕比嘉

比嘉には、現在、ムラの祭祀（ムラウガミ）にかかわる拝所が12か所ある。①アマミキヨ、②シロミキヨ、③ソーゾ御嶽、④久場島御嶽、⑤ヌル殿内、⑥ヌル墓、⑦パン殿内、⑧地頭代火の神、⑨エーグチ神屋、⑩タイラ神屋、⑪ソーゾガー（井泉）、⑫ハマガー（井泉）がそれである。そのなかから、(1)アマミキヨ、(2)シロミキヨ、(3)地頭

代火の神、(4)久場島御嶽、(5)ソーゾ御嶽について、その現況を記すことにする。

ところで、比嘉の神役組織を図示すると次のようになる。



ノロは当山門中、若ノロは新門門中、根神は宜保門中、根人は平良門中か玉城門中からそれぞれひとりずつ選出される。

(1) アマミキヨ

アマミキヨを祀ったという墓が信仰の対象になっている。アマミキヨのことを比嘉の方言でアーマンチュー、アマミチュー、あるいはアマンヂともいっている。アマンヂというときは、アマミキヨの墓のある小島全体をさしている場合がある。

アマンヂ島は、比嘉集落の北側、旧船着き場の東側にある。堤防を兼ねたコンクリートの道で比嘉集落とつながっている。墓は大きな岩の割れ目に形成された洞窟を利用してつくられ、以前は入り口に野面積みの石を積んだだけで、石垣の隙間から洞窟内に散乱している人骨がみえたという。明治20年ごろ、野面積みの石垣を切石にかえて積みなおし、墓の形を整え、大正のはじめごろにコンクリートづくりに改築して、現在に至っている。

墓の前に香炉が1個ある。旧暦の正月の元旦と旧暦6月25日にムラの祭場として拝んでいる。『琉球国由来記』掲載の「アマミゾ（ヅ）嶽」がこのアマミキヨの拝所である。

る。

(2) シロミキヨ

シロミキヨはアマミキヨの対語であると前述したが、比嘉ではシロミキヨを祀った拝所がある。シロミキヨのことを方言ではシルミチュー、あるいは単にシルといっている。

シロミキヨは、比嘉集落の南東約1.5kmのところにあり、比嘉集落の次男、三男が分家してつくった兼久集落に隣接している。兼久集落をぬけて、海岸の方をさらに南へ行く。木立のなかを100mほど入ったところに井泉があり、さらに奥へ進むとコンクリート製の鳥居がある。鳥居をくぐり抜けると長い階段がある。階段をほぼのぼりきったところにもうひとつの鳥居がある。ふたつ目の鳥居をくぐり抜けて、しばらく階段をのぼると広場がある。階段は、108段もある。この階段（参道）は、1955年に改修され、鳥居は1963年に改修されている。広場の右奥に洞窟があり、その中に瓦葺きの祠がある。祠の入り口に「大正六年旧六月十日神祠落成」と記されている。祠にはアミルサツシのドアがついている。祠の前にローソク立てが4台、香炉が1個ある。祠の左手前に石匂があり、水がしたたり落ちている。下の岩にたまった水の多寡によって、豊作、豊漁の吉凶を占うということである。

(3) 地頭代火の神

比嘉の旧公民館向かいにある。コンクリート製の祠がある。祠は、1985年12月13日改

修。祠の前は4 m×4 mの広場になっていて、広場の端は石垣で囲ってある。祠の中にはコンクリート製の石3個、香炉2個、コップ2個が置かれている。

(4) 久場島御嶽

『琉球国由記』に「久場島ノ嶽」とある。兼久集落の入り江の南端に浮かぶ島が久場島で、無人島である。この久場島の北端の岩の上に、久場島御嶽の祠があるというが、今回は島へ渡って確認することができなかった。久場島御嶽の遙拝所（ウトゥーシ）が兼久集落の北部にある。

(5) ソージ御嶽

比嘉集落と兼久集落のほぼ中間地点に小高い山があり、その山頂付近にソージ御嶽の祠があるというが、今回は確認できなかった。その山の麓（兼久集落側）に、ソージ御嶽の遙拝所がある。遙拝所はコンクリート製の祠で、祠の中はジャリを敷き詰めてあり、奥の壁の前にコンクリート製の香炉1個とシャコ貝の貝殻1枚が置かれている。

[浜]

浜には、現在、ムラの祭祀にかかわる拝所が9か所ある。①東の御嶽（シヌグ堂）、②西の御嶽（シリギチャー御嶽）、③ビジュル神、④地頭代火の神、⑤サングワチャー石（龍宮神）、⑥アガリガー、⑦ウプガー（前ヌカー）、⑧シードーガー（上ヌカー）、⑨ユチャガー（吉田カー）。⑥から⑨は井泉である。そのなかから、(1)東の御嶽、(2)西

の御嶽、(3)ビジュル神、(4)地頭代火の神、(5)ウプガー、(6)シードーガー、(7)ユチャガー、について、その現況を記すことにする。

(1) 東の御嶽（シヌグ堂）

浜集落の北東側に位置する。アガリガー（自然石を利用した井泉で、手前はコンクリートを敷いて囲ってある）の前を歩いて50m程行くと木の生い茂った杜がある。杜の中に入り、左手に進むとコンクリート製の祠がある。祠の中に仏像が1体あり、仏像の前に香炉が1個ある。この杜の中の右手には、自然石とブロックを積んだ階段があり、それを10m程のぼると墓のような形態をした拝所があり、香炉が1個置いてある。2 m四方の庭にはジャリを敷き詰めてある。

(2) 西の御嶽（シリギチャー御嶽）

ムラの人たちは、シリギチャー御嶽と称することが多い。

浜集落の南側約200mのところに位置する。杜に入ると庭がある。庭の右側に階段があり、それをのぼると左右に分かれる。左の階段をのぼって行くとビジュル神の祠があり、右の方の階段をのぼっていくとシリギチャー御嶽の祠がある。祠の前はジャリを敷き詰めてある。祠の中に香炉が1個あり、香炉の左右に貝を2枚ずつ伏せてある。祠には「昭和拾年旧拾月改築」と記してある。

(3) ビジュル神

西の御嶽（シリギチャー御嶽）と同じ杜

の中にある。杜の中に入ると庭があり、その右側の階段をのぼっていくと、階段はさらに左右へ分かれる。右側をのぼっていくと、シリギチャー御嶽の祠があり、右側の階段をのぼるとビジュル神の祠にたどりつく。ビジュル神の祠の前は2m×3mの庭があり、ジャリを敷き詰めてある。祠の奥の壁はコンクリートが塗られており、中央下の方にコンクリートの蓋がはめ込められている。香炉はない。

(4) 地頭代火の神

浜公民館の隣にある。鳥居があり、それをくぐり抜けると、左右に灯籠が立っている。奥に祠がある。その中に、表に「奉納」と書かれたコンクリート製の台があり、左右に2個ずつ(計4個)の香炉がある。祠は、昭和43年12月に改築されたものである。旅に出るときは、地頭代火の神で祈願することが習慣となっている。

(5) ウブガー (前ヌカー)

井泉。浜集落から比嘉集落へ通じる道路の、浜集落を出たところにある。水量は豊富のようである。コンクリートで囲って水を貯めている(昭和58年改築)。表側にはクロトンを植えてある。

(6) シーローガー (上ヌカー)

井泉。浜集落の南東側の小高い丘にある。水が豊富で、コンクリートで囲って水を貯め、ポンプで汲み上げて農業用水に利用している。コンクリート囲いの右側に、香

炉を1個置いてある。

(7) ユチャガー (吉田ガー)

井泉。浜集落から比嘉集落へ通じる道路の、浜集落からの坂をのぼりきったあたりから30m程南へ行ったところにある。コンクリートの祠があり(「昭和56年5月吉日」と記されている)、周りは雑木におおわれている。祠の後方に貯水タンクがあって、その周りは金網で囲ってある。

II. 祭 祀

①浜、比嘉の集落レベルの年中祭祀を中心に、その概要を記す。そのなかで、実際に見学したのは比嘉の豊年祭である。

②月日はすべて旧暦である。

③とくにことわらないかぎり、祭祀は両字共通の内容である。

(1) 正月

1月1日。浜はウブガーから、比嘉はハマガーから若水を汲んでくる。家族の健康、豊饒、ムラの弥栄を祈願するため、神女を中心に、各家からひとりずつ参加して拝所廻りをする。

(2) ハチウクシ

1月2日。花米を持って行き、畑ではハチバル、船ではハチウクシを行う。畑では鋤を2、3回入れ、帰宅して農具を手入れして豊作を祈願する。船には松の枝を立て

て、船霊を祀り、航海安全と大漁を祈願する。

(3) ミッチャンサク (ミッチャヌスク)

1月3日。カミニントウともいう。火の神が天から降りていらっしゃるといい、各家の台所の火の神、むらの地頭代火の神で神迎えの祈願を行う。

(4) ナヌカンシャク (ナヌカヌスク)

1月7日。正月の飾りを片づけて、のちほど、御飯と豚肉7切れを仏壇に供える。

(5) ジュールクニチ

1月16日。過去1年間に死者の出た家(ミーサー)では墓参りをする。親戚や字民はミーサーの家に行き、焼香する。

(6) ハチジュリー

1月17日。公民館の総会および新年会を催す。

(7) クシユクイ

2月2日。農作業を休み、豊作祈願をする。この時期は、大豆を蒔き終えるころである。

(8) ウマチー

2月15日。豊作祈願。この日、針や刃物を使うことを忌みきらう。

(9) シマクサラー

2月15日以後。悪霊・災厄祓い。山羊を

つぶし、肉は煮て食べ、骨は注連縄に結わえて、集落の出入口に張りめぐらす。山羊をつぶさないときは、ニワトリをつぶしている。

(10) ハマウリ

3月3日。お重に御馳走を盛り、ヨモギ餅と一緒に献饒し、健康祈願をする。龍宮の神を拝む。潮干狩り。

(11) ウマチー

3月15日。豊作祈願。

(12) シーミー

3月15日ごろ。清明祭。先祖供養。墓参りをする。

(13) アプシバレー

4月15日ごろ。農作物の害虫駆除。かつては、芭蕉の葉と竹で作った舟に、畑からとってきた害虫をのせて、海へ流していた。

(14) ユッカヌヒー

5月4日。ハーリー(舟漕ぎ競漕)を行い、航海安全と大漁祈願を行う。

(15) ウマチー

5月15日。ウフバナウマチーともいう。豊作祈願。

(16) ウイミー

6月14日。折目。

(17) 6月15日。豊作祈願。

(18) 豊年祭

6月24日・25日。

[比嘉の豊年祭]

24日、午後から綱引きを行い、夜はウスデークを踊る。ムラを東西に分け、祭祀集団を形成する。

比嘉の綱は、前年に使用したものを補修して使う。ウスデークの稽古は20日ごろから行うようである。東はカジマヤグワで稽古を行い、西はナカミチで稽古を行う。いずれも夜9時から始まる。

夕方6時すぎ、公民館からの合図で、東西とも旗頭を先頭にガーエーの婦人（仮装している）、綱の順で〈道ジュネー〉を行う。綱は、下から棒を通して20～30人担ぎ、耳（綱の先端）に小学生の男子が2人乗る〈支度〉。15分程で東西とも道ジュネーを終え、綱を引く場所〈ナカミチ〉に集合する。綱を威勢よく持ち上げて、ガーエー歌もうたわれ、にぎやかにガーエーが続く。しばらくして綱をおろし、棒をとりのぞき、耳のついていた男子2人もおりる。そして、東西の綱寄せがある。中央に白線を引いてある。15分程で白線まで綱を寄せ、耳を合わせてカンチナ棒（カヌチ棒）を貫いて、綱を引く。綱は1回だけ引かれる。ちなみに1989年は西ムラが勝った。勝った西ムラは、綱を持ち上げてガーエーし、よろこびを表現する。綱を片づけ、綱引きは終わる。

夜9時半、ノロ家にて二歳踊とウスデークが踊られる。今年（1989）は二歳踊は踊

られず、音曲のみ演唱された。かぎやて風節、豊年口節、揚作田節の3曲である。ウスデークは西ムラ、東ムラの順で踊られた。ウスデークは小学生以上の女性が踊るが、子供たちはユカタを着け、大人は紺地の絆を来て、紫帯をしめる。太鼓を打つ者数人はフロシキで頬被りをする。踊りの隊形は鼓打ちが先頭になり、2列縦隊になる。ウスデークの歌曲は、西ムラが①スーリー東節、②豊かなる節、③伊集の木節、④打ち鳴らし節、⑤ヨー加那ヨー節、⑥いそーさ節の6曲で、東ムラが、①スーリー東節、②はるんかてい節、③打ち鳴らし節、④しゅうん節、⑤ヨー加那ヨー節、⑥いそーさ節の6曲である。

ウスデークを踊り終えると、ノロ家を出る。そのあと根家や元家など数か所でも同じように、二歳踊りとウスデークを踊り、最後はナカミチで踊る。深夜までムラ中にぎわっている。

ここで、〈綱引きガーエーの歌〉と、東西の〈ウスデークの歌〉の歌詞を紹介しておく。綱引きガーエーの歌は、東西で交互にうたわれる。ウスデークの歌は、東西ともはじめにうたわれる曲よりも後半でうたわれる曲の方がテンポが早く、おしまいはカチャーシを踊る。

歌詞は現地の発音をできるだけ忠実に反映するために、かな表記にした。歌詞の表記は、対句部はひらがなを、反復句（囃子の部分）はカタカナを用いて区別する。対語訳は省略した。

なお、以下に記載する歌詞は、筆者の調

査ノートをもとにしたが、吉本清宜氏の資料によるところが大きい。貴重な資料を提供していただいた吉本氏に深甚なる敬意を表したい。

〈綱引きガーエーの歌〉

1. うるらちんちゅらさ

あしばちんちゅらさ

くりなちゅるうやや

かみるやてる

ササッササッサ

2. いりぬなかみちに

みぐいとうーるさぎてい

くりがあかがりば

みるくゆがふ

ササッササッサ

3. いりぬあんぐわーたや

いちまいむしるににんずなよ

あがりにせぐわーたが

いちちゅぐとう

ササッササッサ

4. ちなひかんまーるや

かながなとうあしり

あねるちなひきば

ちむぬかわてい

ササッササッサ

5. いりぬにせぐわーたや

ひらいめーぬにりがさがさ

しるわかち

かんだばーぬうしる

ササッササッサ

6. あがりにせぐわーたや

しまぐみぬんぱい

あさゆはんだまぬ

くがぬうしる

ササッササッサ

7. ちゅーぬゆるまかち

じまんすなあばぐわー

あちゃぬゆるからや

すんちくるさ

ササッササッサ

8. いりとうあがりとうや

はしるひざみとる

ちむぬかわたしや

ちなぬゆる

ササッササッサ

9. あんゆしやゆくし

いちわいるやゆる

あんゆしやはなぬ

さかばでむぬ

ササッササッサ

10. あがりにせぐわーたや

ちむくんぞぬはごさ

いりぬなかみちに

つひさんくますなよ

ササッササッサ

11. いりぬゆみなとてい

かんくりさあむぬ

むてるさかぢちや

むるちやらせ

ササッササッサ

12. あねるあがむていに

わねいつみあんま

をうとうままでむぬ

いかねなゆみ

ササッササッサ

13. あがりゆみなゆせ

いくたいるやしが

いりぬゆみなゆせ

あまたまんでい

ササッササッサ

ウスデークの歌〈西〉

〈スーリー東節〉

1. スーリー

はなぬいりむていや

スリサーサ

だんじゅとうゆまりる

スリサーサスーライ

ちゅちりみやらびぬ

スリサーサ

なだるちゅらさ

スリサーサスーライ

〈豊かなる節〉

1. ゆたかなるみゆぬ スリ

しるしあらわりてい

スندگانスーリササッサ

2. あみちゆぬみぐみ スリ

とうちんたがわん

ウندگانスーリササッサ

3. はるんかていみりば スリ

うくまみぬかばさ

スندگانスーリササッサ

4. ゆびゆだるじゅりぬ スリ

にういぬかばかばさ

スندگانスーリササッサ

〈伊集の木節〉

1. んじゅぬきーやゆかてい ハーリ

ましらヨーはなさちゅい ハーリ

2. わみんヨーんじゅぬぐとう ハーリ

ましらヨーさかさかな ハーリ

ヒヤルガーヒーササッサ

〈打ち鳴らし節〉

1. うちならしヨーならし

ヒヤルルーガーヒーササッサ

2. ゆちだヨーきわならし

ヒヤルルーガーヒーササッサ

3. ならすゆちヨーだきぬ

ヒヤルルーガーヒーササッサ

4. うとうぬヨーちゅらちゅらさ

ヒヤルルーガーヒーササッサ

〈ヨー加那ヨー節〉

1. ヨーカナヨー

あたいをうぬなかぐヨー

ましらふいちさらち

ハルヨーンゾーヨ

やまとうめーるさとうが

ヨーカナヨー

どうんすはかま

ハルヨーンゾーヨ カナヨースーリ

〈いそーさ節〉

1. いそさふくヨーらしゃヨーハリー

なちとううり

ヨーヘイヨージントヨー

2. ゆくぬふくヨーらしゃやヨーハリー

なまどうやゆる

ヘイヨーヤユルヨー

ウスデークの歌〈東〉

〈スーリー東〉

1. スーリー

あがりんかてい

スリサーサ

とうびゆるあやはびる

スリサーサ

まじゆまでいはびる

スリサーサ

いやーいたぬま

スリサーサ

〈はるんかてい節〉

1. はるんかていみりば スリ

うくまみぬかばさ

スندگانスーリササッサ

2. ゆびゆだるじゅりぬ スリ

にういぬかばかばさ

スندگانスーリササッサ

3. なぐぬうふがにく スリ

うまはらちいそさ

ウندگانスーリササッサ

4. ふにはらちいそさ スリ

わうらどうまどうまい

スندگانスーリササッサ

〈打ち鳴らし節〉

1. うちならしヨーならし

ヒヤールガーヒーササッサ

2. ゆちだヨーきわならし

スラージャンナヨーササッサ

3. ならすゆちヨーだきぬ

ヒヤールガーヒーササッサ

4. うとうぬヨーちゅらちゅらさ

スラージャンナヨーササッサ

〈しゅどうん節〉

1. しゅどうんヨーながはまに ハーリ

うちゃいふいくなみぬ ハーリ

2. しゅどうんヨーみやらびぬ ハーリ

みわれヨーはぐはぐち ハーリ

ヒヤールガーヒーササッサ

〈ヨー加那ヨー節〉

1. ヨーカナヨー

あたいをうぬなかぐよー

ましらふいちさらち

ハルヨーンゾーヨ

やまとうめーるさとうが

ヨーカナヨー

どうんすはかま

ハルヨーンゾーヨ カナヨースーリ

〈いそーさ節〉

1. いそさふくヨーらしゃヨーハリー

なちとうり

ヨーヘイヨージントヨー

2. ゆくぬふくヨーらしゃやヨーハリー

なまどうやゆる

ヘイヨーヤユルヨー

翌日（25日）は、午前中、神女たちを中心に12か所拝みをする。朝、公民館から、拝みに多くの方が参加するようにとの放送があった。浜の神女たちも比嘉に拝みにくる。

夜8時すぎ、東西の旗頭がそろってノロ殿内へ行く。庭でカチャーシの曲に合わせて旗頭をにぎやかに持ち上げた後、旧公民館へ向かう。旗頭のうしろにウスデークを踊る女たちが続いている。旧公民館で旗頭を所定の位置に結わえる。8時半ごろ大太鼓を打ち鳴らし、旧公民館で踊りがはじまることをムラ人に知らせる。ムラ人が大勢

集まった。はじめに東のウスデークが踊られ、続いて西のウスデークが踊られた。東のウスデークは鼓打ち6人、踊り手23人(うち小中学生12人)で構成され、西は鼓打ち6人、踊り手26人(うち小中学生17人)で構成されていた。

ウスデークが終わって、舞台上で踊りが演じられた。演目は、かぎやで風節、スーリー東、ちんぬくじゅーし、ていんさぐぬ花、浜千鳥、民謡、加那ヨー、上り口説、あやかり節、前の浜などで、おしまいにカチャーシーを踊り、11時ごろ終わった。

[浜の豊年祭]

一方、浜でも綱引きと舞台芸能が、公民館前で行われた。浜の綱引きや芸能は実際にみることはできなかったが、芸能のプログラムを紹介しておきたい。会長あいさつ、かぎやで風節、豊年、区長あいさつ、くんぬはし節、海ぬちんぽーらー、前の浜、汀間当、繁唱節、上り口説、南洋浜千鳥、鳩間節、谷茶前、万歳、祝い節、揚作田節、まみどーま、安里屋、貫花、浜千鳥、四季口説、あやかり節、湊くり節、黒島口節、踊りくわーでいーさ。

(19) シヌグ

6月26日。この祭祀は現在では行われていない。かつては、浜に小屋を建てて、男たちが一晩籠もったり、朝早く、棒や竹を持って各家で「シヌグエンチャー ウミニウイラレー」といいなが、家の壁をたたき、ネズミを追いかけることも行っていたという。

(20) ムシボシ

7月15日。衣類を虫干しする。

(21) タナバタ

7月15日。墓の掃除をし、13日からお盆がはじまることを御先祖さまに報告する。

(22) 盆

7月13日から15日。13日はウンケー(お迎え)、14日は中日、15日はウークイ(お送り)。15日にはエイサーを演じる。

(23) ヨーカビー

8月8日から11日の間に行う。悪霊・災厄祓い。

(24) シバサシ

8月9日・10日。悪霊・災厄祓い。

(25) ウフアシビ

8月28日から30日。〈13年マール〉といって、浜では子(ネ)年、比嘉では丑(ウシ)年に、だいたい的にムラ踊りを行う。舞踊、棒踊、劇、組踊などが演じられる。

(26) チクザチ

9月9日。菊酒。家族の健康と繁栄を祈願する。

(27) ムーチャー

12月1日。サンニン(月桃)の葉で包んだ餅をつくり、特に男の子の健康祈願をする。

(28) 御願解き

12月24日。火の神に1年間の感謝をする。

◆浜比嘉島での調査では、次の方がたにお世話になった。厚く感謝申しあげる

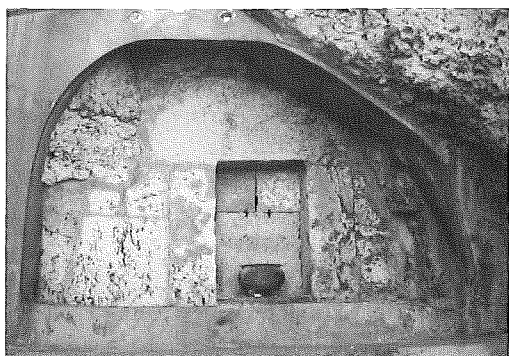
次第である。

金城善勇氏（浜 公民館長）

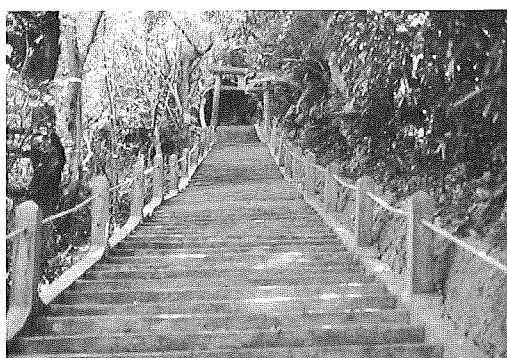
島田 明氏（比嘉公民館長）

吉本シゲ氏

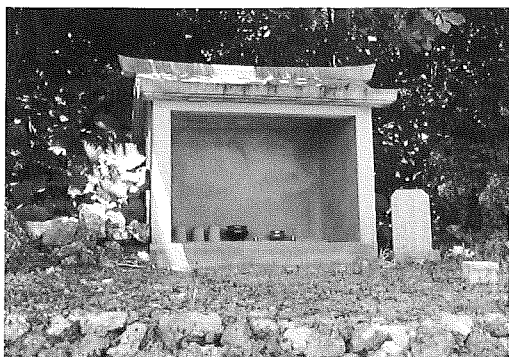
吉本清宜氏



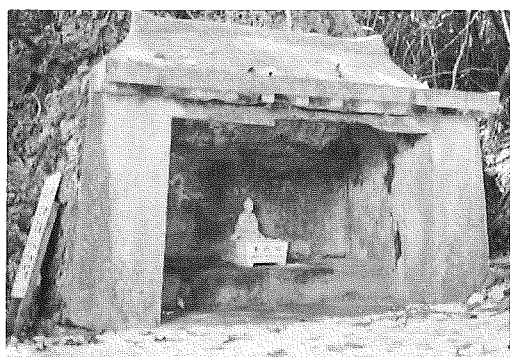
アマミキヨの拝所〈比嘉〉



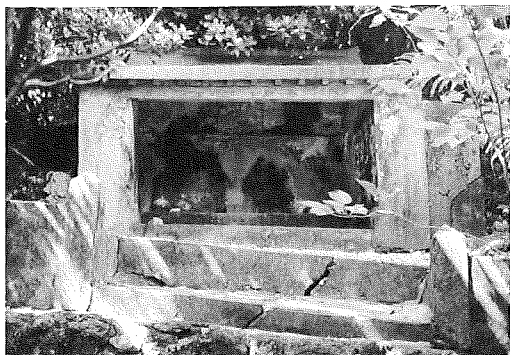
シネリキヨの参道〈比嘉〉



地頭代火の神〈比嘉〉



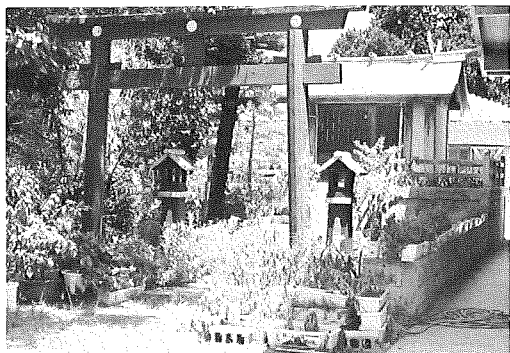
東の御嶽の祠〈浜〉



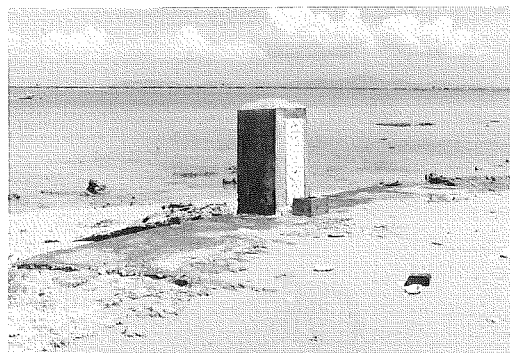
西の御嶽の祠〈浜〉



ビジュール神の祠〈浜〉



地頭代火の神 〈浜〉



サングウチャー（龍宮神）〈浜〉

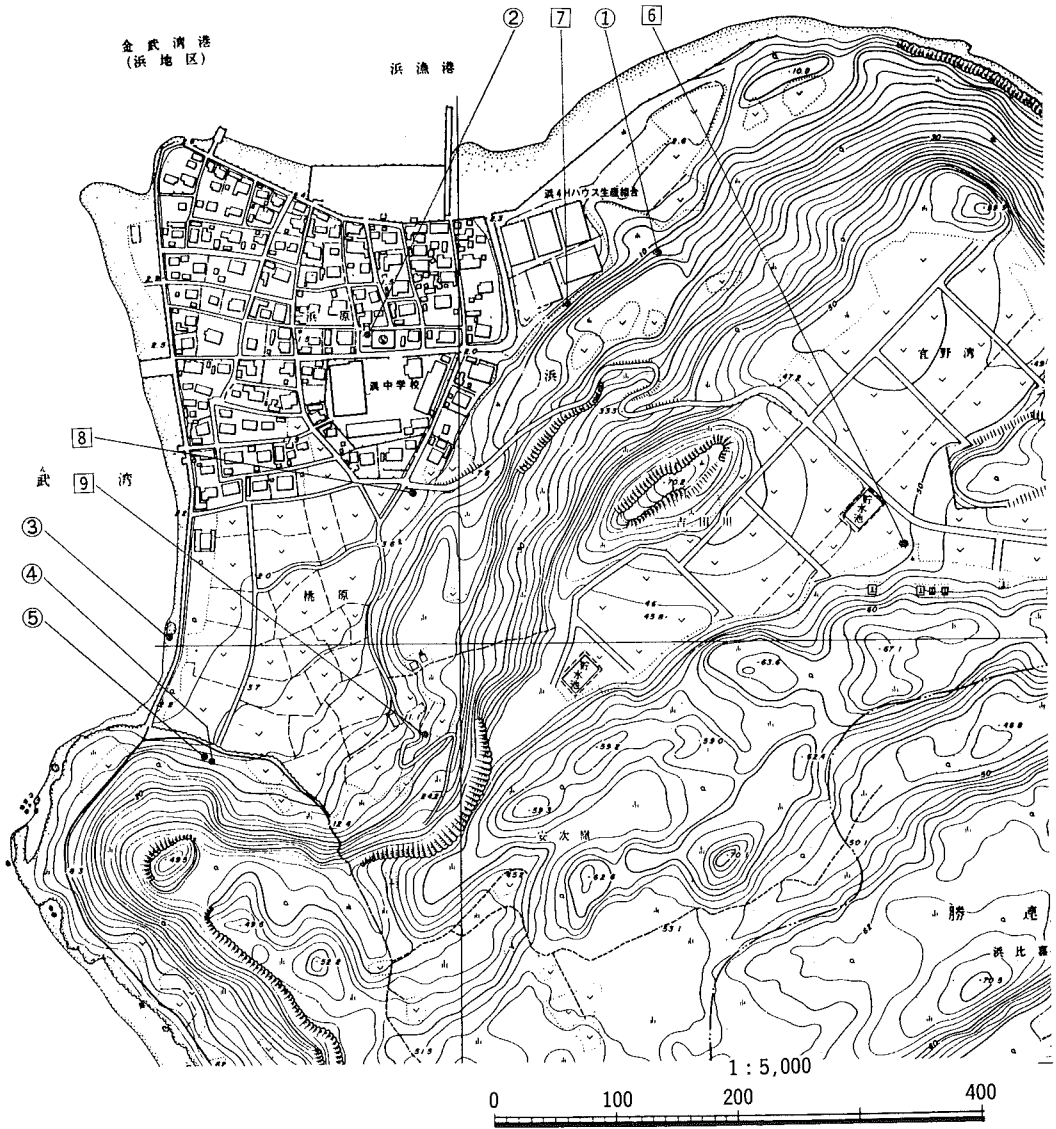


綱の道ジュネー（東ムラ）〈比嘉〉



ナカミチでの綱寄せ 〈比嘉〉

祭場 1 〈浜〉



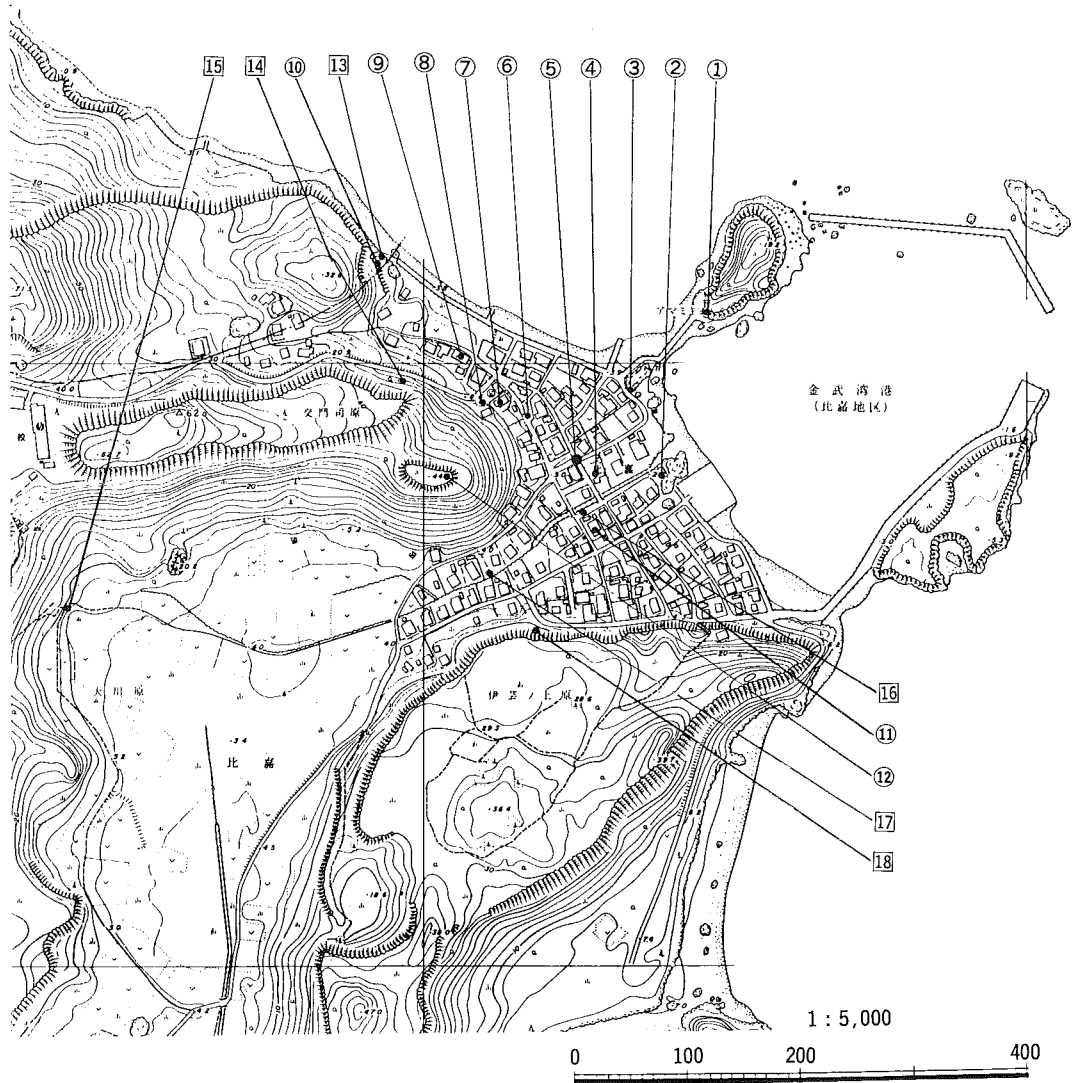
御嶽等拝所

- ①東の御嶽
- ②地頭代火の神
- ③サングワチャー石
- ④ビジュル神
- ⑤西の御嶽

井 泉

- ⑥ユチャガー
⑦アガリガー
⑧ウブガー
⑨シーローガー

祭場 2 〈比嘉①〉



御嶽等拝所

- ① アマミキヨ
- ② カジマヤグワ
- ③ タチンニ
- ④ タイラ神屋
- ⑤ ナカミチ
- ⑥ 火の神

- ⑦ バン殿内
- ⑧ 地頭代火の神
- ⑨ ノロ殿内
- ⑩ 按司墓
- ⑪ エーグチ神屋
- ⑫ 比嘉グスク

井 泉

- ⑬ 上ヌカー
- ⑭ ハマガー
- ⑮ ハルガー
- ⑯ ミーガー
- ⑰ チーガー
- ⑱ アガリガー

祭場3 〈比嘉②〉

